かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより夏休み号
平成２３年７月 20 日
横浜市立川島小学校

校　長　小池　慎一
TEL ３７１－０７５７
FAX ３８１－７２４８

星に願いを

学校長　小池　慎一

明日から、子どもたちにとっては、待ちに待った夏休みです。今年の梅雨明けは例年より１０日以上早かったので、７月は猛暑の中での授業でした。

暑すぎると、頭の働きもオーバーヒートしたエンジンのようになってしまうように思えます。心は熱く持ちたいけれど、頭はできるだけ冷やしておきたいと思っています。

以前も書きましたが、夏は星を見るのに適した季節です。

８月中旬には、ペルセウス座流星群が期待できそうですし、日本人の古川宇宙飛行士が搭乗している国際宇宙ステーションも見える機会が多くあるそうです。

（８月１３日の未明は、条件が良ければ両方同時に見えるという話も聞きます。）

定番の「夏の大三角形（はくちょう座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイル）」も、見つけやすいですし、さそり座のアンタレスという赤い星も見ることができます。

光の速度で飛んでいっても、わし座のアルタイルで１７年、こと座のベガまでは２５年、はくちょう座のデネブは千数百年、さそり座のアンタレスまでが５００年以上かかる…というような、途方もなく遠くにある、そんな星々を見ながら、まだ子どもだった頃の私は、そんな星々の間を飛び回る夢を見ていたのでした。

日本の中にも星がたくさんみえる場所が、まだまだ残っていて、寝転がって空を見上げると、「降ってきそうな」「手を伸ばすと触れそうな」そんな感覚になれたときの気分は、とても気持ちの良いものです。機会があれば、またいつか行ってみたいと思っています。

横浜ではそこまでは無理ですけれど、夏の日を楽しむために、夜空を見上げて、星の世界であれこれ思いを巡らしてみたいと思っています。

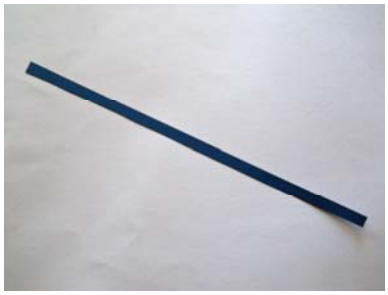
昔から人は、きっと夜空を見上げ、溢れてきそうな星々の瞬きを感じながら、心の温かさや、人の心と心の結びつきを大切にしてきたのだろうと思います。

そんな気持ちに、私も少しでも近づきたいと思っています。

そうして、夏休み明けの８月２９日には、清々しく日焼けした顔の子どもたちを見たいと思っています。

さて、そんな憧れの星を、手元に置いてみたい方のために（親子で語らいながら作ってみたい方のために）、裏面に星の作り方をご紹介します。

☆☆☆☆　紙で作るお星さま　☆☆☆☆



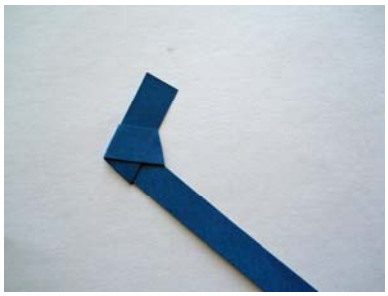
【準備するもの】

〇細長く切った紙（ある程度、腰のある紙）

（例：カレンダーやカタログに使われている紙など）

１～１.５ｃｍ幅くらいが扱いやすいです。

〇はさみ



まず、結び目を作ります。

しっかりとした結び目にすると、後の作業が楽です。

結び目のはみ出た部分の、短い方を切り取ります。

長くはみ出た部分を、

右のように五角形ができるまで、ぐるぐる巻きに、折りたたんでいきます。

最後の部分は、挟み込んで、はみ出た部分を切り取ります。

五角形ができたところで、各辺を五角形の内側に押します。

一辺ずつ丁寧に押すことがコツです。

爪の硬い人は、親指の爪で押すとうまくいきます。

小さい子どもは、爪がやわらかいので、爪で押すと爪が割れてしまうこともありますので、注意してください。

全部、内側に押すと、☆のできあがりです。